

令和5年度 芸術科 美術Ⅱシラバス	単位数	学年・学級	使用教科書・副教材等	担当
	2単位	第2学年 文型	担当者による参考図書の準備 や資料作成を行う。	城間 大輔

学習目標

(知識・技能) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。

(思考力・判断力・表現力) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(学びに向かう力) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

内容と評価の方法

- ・ 学習活動への参加状況 (制作へ取り組む姿勢、参考資料の準備・用具の用意と片付け)
- ・ 制作した作品 (試作品など制作の全過程)
- ・ ワークシート (アイディアスケッチ、自己評価、振り返り、鑑賞活動など)
- ・ 制作計画シート

学習計画及び評価基準

学期	月	題 材	指 導 内 容	評価の観点
一 学 期	4	オリエンテーション 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の課題や授業への取り組み方、評価方法についてパワーポイントにて説明。 ・ 作品鑑賞をして、気に入った作品のスケッチと気に入った理由を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の目標をもたせる。 ・ 様々なジャンルの作品資料を活用し、スケッチして気に入った理由を語ることができる。
	5			
二 学 期	6	平面構成 (ポスター・ 図画)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題選択の決定し主題を決める ・ イラストや文字の構成を練る(構想)それを基に下絵を描く ・ アクリル絵の具の特性を生かし、色彩を表現する(着彩) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝達したいメッセージを捉えて、構成や色彩の工夫ができる。 ・ 色調の効果を学び、アクリル絵の具の特性を生かした表現ができる。
	7	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作作品を展示して、自他の作品を鑑賞し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の作品鑑賞を通して、表現の多様性を知り、他の個性を尊重させる。

二期	9	ミクストメディア (壁掛け時計作り)	<ul style="list-style-type: none"> 生活を豊かにする装飾品について考える 木工制作について学び、文字盤のデザイン、加工方法、作業手順を考える 針の加工や着彩。 ムーブメントの取り付け 	<ul style="list-style-type: none"> ミクストメディアや装飾品について知る。 素材の加工方法、機械の扱い方、作業手順を習得。 設置場所等に合ったデザインを考え、それを基に造形の構造をイメージして制作する。
	10	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品を通して、表現のおもしろさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品を通して感性の共感・共有ができ、表現の工夫も感じ取る。
	11	版画 (ドライポイント)	<ul style="list-style-type: none"> 版による様々な表現方法を知る。 テーマの設定。 構想を練る。 版づくり 刷り（試し刷り、本刷り） 	<ul style="list-style-type: none"> 版画の特徴や効果など理解。 スケッチを基に、表現したいものの特徴をとらえ、構図を考えることができる。 版画の特徴を生かした工夫ができる。 自他の作品を通して感性の共感・共有ができ、表現の工夫も感じ取る。
三期	12	鑑賞		
	1	食器制作 (日常のデザイン)	<ul style="list-style-type: none"> 陶土の特性と技法、制作工程について学ぶ。 身の回りの道具のデザインや、用途美について。 食器のデザインを考える。 成型（デザインに適した技法で形を作る） 加飾（貼り付ける、削るなどの装飾を加える） 乾燥→素焼き→絵付け→施釉→本焼き 窯出した作品で飲み物を味わい、友達の器も鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の準備・後片付け、材料の保管、安全面を徹底。 使いやすい、楽しい、美しい形など素材に適したデザインを考える。 デザインを基に、造形の特徴を捉え、構造を工夫して表現できる。
	2	作品試用・鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> 試用と鑑賞を通して、ものづくりの楽しさを味わい、自他の表現の工夫を感じ取る。
	3	美術Ⅱのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 作品整理 美術Ⅱでの制作姿勢を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学んだことを振り返る。

☆美術の授業は絵をうまく描くための時間ではありません。自分の考えていることや頭の中のイメージ（他人から見えないもの）を、他人へ伝える力を学ぶ時間なのです。そのために大切なことは「考える」「気づく」ことです。授業中は、どうやったら主題にそって自分の考えをうまく「視覚化」できるのか。よく「考えて気づく」時間にしてほしいです。 美術教科担当より